

童謡の里

めぐろ保存会ニュース

第56号



童謡の里めぐろ保存会ニュース
発行日 2023年8月3日
発行者 童謡の里めぐろ保存会
責任者 三田春彦
事務局 新井佳代子
☎090(4024)1806

「めぐろ童謡コンサート」

みなさま

眞理ヨシコ

30周年。おめでとうございます。

今や、大きな「歌の集い」の場として人々の心に、歌の楽しさを届けていらつしやることに、感謝の思いとお祝いを申し上げます。

久しぶりに、本居長世の歌を聞いて頂く喜びを、かみしめております。

もし、本居という作曲家が存在しなかったら、日本の童謡の根幹は、味わいの薄いものになつていたのではないかと思います。

金田一春彦先生や、安西愛子先生の、熱い『本居愛』のお心を受けて、沢山の本居作品に出会えたことは、私にとつて、幸せなことだったと思つています。

一つ一つの名曲を、大切に、大事に魅力的に、いつまでも歌い続けたいと思います。



眞理ヨシコさんとメインゲストのみなさまをご紹介します



シュガーシスターズ
佐藤容子ソプラノ
佐藤寛子メゾ・ソプラノ



佐藤由里亜



眞理ヨシコ



たいらいさお



岩田瞳

30周年記念 めぐろ童謡コンサート

令和5年10月15日(日)

13時開演 めぐろパーシモンホール 大ホール

メインゲスト：眞理ヨシコ・たいらいさお・シュガーシスターズ・岩田瞳・佐藤由里亜
出演団体：育英幼稚園・大岡山小学校 合唱団・大鳥中学校 吹奏楽部・
童謡クラブ萩の会・東京音楽大学・わらべ館(鳥取県)



30周年記念コン



歌碑の隣には、本居長世の功績を記念して建設した旨が記載されています。

歌碑が出来たのを記念して、目黒公会堂にて「桜の花のコンサート」を目黒区主催で開催しております。

その後、金田一先生から、歌碑建立の責任者であった目黒区役所の佐々木課長に「目黒で童謡だけのコンサートを開催してほしい」とお手紙が届きました。佐々木課長は「童謡は子どもの歌だから子ども会でもやってほしい」と目黒区子ども会連合会の松本金光氏に依頼されました。そこで子ども会の役員数名が集まって協議しました。いつ、どこで、どんな形で開催するのか……次世代に童謡を伝えるには、幼稚園、小学生、中学生に出演を依頼し、大人の合唱団、それにプロの歌手をお呼びしようということになりました。

第1回のゲストは、

鷹番の高官さんが「うちのマンションに素晴らしい童謡歌手の方が住んでいます」とご紹介してくださり「小さな木の実」で大ヒットした大庭照子さんに出演していただきました。



大庭照子さん

第1回から第7回までは目黒公会堂で開催。老朽化した建物でしたので、松島トモ子さんをゲストにお迎えした際には、金田一先生がNHKテレビで宣伝したため「これ以上お客様が入場したら



めぐろ童謡「春彦・愛子」がありました

第1回コンサートのチラシ



金田一先生最後のご出演
(平成15年11月24日)



鳥取県とも交流ができ、お互いに「童謡の里」ということで平成15年には鳥取の「いわみコーラス」の皆さんがバスを貸し切って出演してくださいました。

メインゲストには大庭照子、川田正子、野口不二子、眞理ヨシコ、松島トモ子、芹洋子、グレッグ・アーウィン、伊藤咲子、ひばり児童合唱団など数多くの方にご出演いただきました。

【本居長世】

本居長世は1885年(明治18年)に国学者本居宣長の和歌山学党六代目として生まれる。母との死別、父との別れを経て祖父豊頼に育てられる。国文学の道ではなく音楽の道を志す。東京音楽学校(現東京藝術大学)を首席で卒業し、作曲家であり、ピアニスト、演奏家でもあった。

日本的な音階を意識し憂いのある短調を好んだが、西洋音楽も取り入れ、独自のスタイルを試みた。孤独を多く経験した長世は、子どもたちに童謡という形でさまざまな愛を表現した。三人の娘たちに恵まれ、常に一緒に日本中を旅して全国に自作の童謡を披露した。長女みどりには童謡歌手一号であり、貴美子、若葉の三姉妹は童謡歌手として高く評価された。

大正7年、鈴木三重吉が児童雑誌「赤い鳥」を創刊し童謡を広めた。詩人の北原白秋、長世の同期である山田耕筰らが活躍した。長世はお弟子さんの中山晋平、弘田龍太郎の声かけで、大正8年に創刊された「金の船」で詩人野口雨情との出会いがあり「十五夜お月さん」を作曲、踊りまで付いて人気を博した。代表作「七つの子」「赤い靴」「青い目の人形」等、大人にも子供にも愛される童謡を数多く作曲した。日常は一般のお弟子さんが多く、いつも賑やかなお宅だった。そのような中、作曲家に憧れた国語学者の金田一春彦や、長世の作品を発表するにあたり、歌手の藤山一郎が訪れていた。

晩年、長世は童謡を作曲せず、平和を願った。奇しくも、終戦の年1945年(昭和20年)に亡くなり、60年の生涯だった。遺言のように言っていた言葉は「私は死んだら生きるよ」。それは、「私の作った童謡をいつまでも子どもたちに歌ってほしい」という表れではないだろうか。

サートを迎えて

「めぐる童謡コンサート」の誕生

童謡の里めぐる保存会 副会長 鶴田智美

目黒不動尊の境内に本居長世の「十五夜お月さん」の歌碑があります。この碑は昭和60年に本居長世生誕100年を記念して、金田一春彦先生、藤山一郎氏のお声掛けで建立されました。



「十五夜お月さん」の歌が
刻まれた本居長世の歌碑
(藤山一郎サイン入り)



記念碑の建設にたくさんの著名人が
賛同し、寄付をしてくださいました。

公会堂が壊れます」と言われてしまうほど盛況で
した。



松島トモ子さん



毎年、目黒区内の学校にも出演を依
頼し、童謡を歌う機会を持っていた
でいます。

そして、第1回から本居若葉さん、第2回目か
ら、金田一先生のお声がけで親友の安西愛子先生
もご出演くださり、総会をはじめ、コンサート会
場も人数制限するほどでした。

コンサートでは3人の「お話コーナー」もあり、
童謡にまつわる数々のエピソードを伺うことが
できました。



ンサートの中に、
・若葉コーナー」

もともと童謡の好きな人たちが集まってでき
た保存会ですので、自分たちもコーラスグルー
プを作って出演したいね、と相談しました。目黒区
の花である「萩」から名前を取って「萩の会」と
しました。当時、社会教育館で歌の会をやってい
らした西岡文郎先生に指導をお願い致しました。
のちに分かった事です、西岡先生は金田一先生
の作曲した曲に伴奏、編曲をされていた先生でし
た。

萩の会が初めてコンサートに出演したのは第
2回からで、250曲以上の童謡を歌い継いでい
ます。



萩の会初めてのコンサート出演
「今年も和気あいあい、
笑顔で楽しく歌っています」

金田一先生は平成16年の総会の後、91歳で
亡くなられ、安西先生も童謡と共に生き、100
歳で旅立たれました。この先生たちのおかげで今
も「めぐる童謡コンサート」は続けていられます。
「保存会ニュース」にも本居若葉さんも原稿を
書いてくださり、金田一先生も何度も寄稿してく
ださいました。初めからこの会にかかわっていた
人たちもいづいぶんの世に旅立ちましたが、歌は
永遠です。

永く携わってきた一人として、この会がますます
発展し、35年、40年、50年と続きますよ
う、心より願っております。

「めぐろ童謡コンサート」

参加にあたって

目黒区立大島中学校吹奏楽部



私たち大島中学校吹奏楽部は、3年生8名、2年生9名、1年生11名の計28名で、顧問2名と外部指導員3名の下、活動しています。昨年度までは新型コロナウイルス感染症の拡大により、思うように活動ができなかった時期もありました。感染症対策により、互いに距離をとって演奏しなければならなかったり、練習時間が限られていたりなど様々な制約がありました。一時は、発表する場が全て無くなり、何のために練習するのか分からなくなる時期もありました。



がら、これまで日々努力してきました。そして有り難いことに、今年度はめぐろ童謡コンサートを始めとする、地域の演奏会に出演する機会を多くいただくことができました。年に数回しかない発表の場が増え、いつもお世話になっていた地域の方々に対して演奏できることは、生徒たちにとって、この上ない喜びであり、貴重な経験になることでしょう。

8月の吹奏楽コンクールを終え、3年生は仮引退をするので、今回は新体制となって初めての演奏会となりますが、日頃の感謝の気持ちを込めて精一杯演奏させていただきます。お聴き苦しい点もあるかと思いますが、最後までどうぞお聴きいただければ幸いです。

結びに、地域の方々への感謝や表現の場を与えてくださる、このめぐろ童謡コンサートがこれからも続きますよう心からお祈り申し上げます。

あ・ら・か・る・と

七つの子



からす なぜ鳴くの
からすは山に
かわいい七つの子があるからよ
かわい かわいと
からすは鳴くの
かわい かわいと
鳴くんだよ
山の古巣へ
行てみてごらん
丸い目をした
いい子だよ

この童謡は、作詞 野口雨情(1882年～1945年)、作曲 本居長世(1885年～1945年)によるものです。歌詞の中で、鳥は「可愛い、可愛い」と鳴いています。

タイトル「七つの子」の「七つ」にまつわるエピソードは諸説ありますが、鳥は7羽も雛を育てる事はなく、7年も生きてると子どもではなくなるので、どれも真実味がありません。

野口雨情が7才の時に母親と別れた、また7才の息子を亡くしたところからの発想とも云われていますが、こんな幸せエピソードはいかがでしょうか。

毎日夕刻、山の駅に父を迎えに行く母子。その時、鳥の鳴き声を聞いた子どもは、「鳥は何故可愛いと鳴くの?」と聞いた。子どもには、鳥の鳴き声が「か～ か～」ではなく「可愛い 可愛い」と聞こえたようです。なぜなら、両親にいつも「可愛い 可愛い」と言われ育っていたからです。幸せな家族の光景が目に見えます。

不可思議な詩とまで言われているようですが、野口雨情のユーモラスな対話式の詩に、本居長世の愛情深いメロディーとリズムによる作曲で、「切なさの中に幸せを感じる、温かみのある曲」として、後世に歌い継がれている所以ではないでしょうか。

市川京子

編集後記 30周年記念コンサートのゲストも発表になり今からコンサートが楽しみです。どうぞ皆様お誘い合わせの上、お越しください。10月15日(日)会場でお会いしましょう。(鶴田智美・池田祐子 記)